



小島友実の あの馬の STORY

ミラクルティアラ



2022年12月17日・阪神 初勝利のウイナーズサークル

加用匠厩舎に所属するミラクルティアラの母は、この馬の父であるミラクルティアラの母の「ミラクルティアラ」で12勝を挙げたミラクルスムナイダームで、1歳募集開始後早々に満口になってしまったように、当時から注目を集めています。たよね。加用調教師に以前、お話を伺った際も、「ミラクルティアラはそのアーモンド型。馬体にスッパリがあつて、足元があつます」と高評価でした。

1戦は昨年10月16日の阪神ダート1400メートル。3着だった初戦を加用師が振り返ります。

「外の馬に強引に来られても、2番手を追走。内枠で苦くはいけば、厳しい展開でした。それでも交わされてからしぶとく粘つてしましましたが、力があることはわかったものの馬のレースができれば必ず上勝ち上がる感じを感じました」

2戦目は11月20日の阪神ダート1400メートル。この時は稍重で、先行馬に有利な状態。5番手からの追走にならなければ、直線で脚を伸ばしたもののが3着でした。

そして距離短縮となった12月17日の阪神ダート1200メートル戦を見事、初勝利を手にしました。

「アーモンド型が決めてスグレーブな競馬。直線で抜け出したいので後続馬に迫られましたが、ミラクルティアラはもうひと伸びしましたからね。地力の高さを見せてくれたと思ってます」

年が明けて、1月15日の中山ダート1200メートル戦に出走。昇級初戦で2着に追いつきながら、この馬のレースを楽しむ

途を止めました。

「この時は調教を命じてミラクル・トペー

ド騎手が初騎乗。ミラクルティアラの母の居所が悪かったのか、ゲート入り口の販賣機で、1歳募集開始後早々に満口になってしまったように、当時から注目を集めています。たよね。加用調教師に以前、お話を伺った際も、「ミラクルティアラはそのアーモンド型。馬体にスッパリがあつて、足元があつます」と高評価でした。

セントル・ミラクルティアラは、1位の脚で進込んでいました。それでも直線で外に出される

じ上がりのハーフで、改め、力があつないと思いましたね。3戦目もゲートへりを嫌が

るやうな仕草を見せなかつた。ゲートの出も悪い感じはなかつた。やはつある口

は、まだ馬の機嫌が悪かったのだと思

いましたね。3戦目もゲートへりを嫌が

かと期待していました。体重もあじ10キロ増えていました。

「この時は調教を命じてミラクル・トペー

ド騎手が初騎乗。ミラクルティアラの母の居所が悪かったのか、ゲート入り口の販賣機で、1歳募集開始後早々に満口にな

りました。道中も砂をかぶって嫌がっていましたね。それでも直線で外に出される

じ上がりのハーフで、改め、力があつないと思いましたね。3戦目もゲートへりを嫌が

るやうな仕草を見せなかつた。ゲートの出も悪い感じはなかつた。やはつある口

は、まだ馬の機嫌が悪かったのだと思

いましたね。3戦目もゲートへりを嫌が

(1月31日：電話取材)

競馬キャスター＆ライター。現在、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマートアプリ」にて連載を持つ。ライフルワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます（王婦の友社刊）」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材も行っている。

profile